横浜市立 早渕中学校　　令和　3　年度版　中期学校経営方針　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

学校教育目標	学び合い　認め合い　高め合う （知） 自ら学び、自分とは違う考えを取り入れ、互いに高め合うことができる生徒を育てます。 （徳） 誠実に、互いのよさを認め合い、自他を尊重する生徒を育てます。 （体） 健やかな体を育み、たくましい心をもつ生徒を育てます。 （公） 社会の一員であることを自覚し、地域に貢献する生徒を育てます。 （開） 豊かな感性と広い視野をもち、様々な価値観を認め合う生徒を育てます。

学校概要					
創立　12　周年	学校長　福田　昌弘	副校長　津曲　勇造	2　学期制	一般学級：17	個別支援学級：1
児童生徒数：　620　人	主な関係校：勝田小学校・折本小学校・新吉田第二小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
問題発見・課題解決能力 言語能力 自分づくりに関する力

中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
早渕中学校 勝田小学校 折本小学校	人とのつながりを大切にし、仲間と共に高め合う児童・生徒 ①小中学校の教職員の人的交流を促進して、「学力観」「指導観」について、より一層共有化を図り、基礎・基本の確実な定着と主体的な学びを目指した、授業改善の促進と学力向上を図る。②小中学校間の中1ギャップから生じる不登校問題など、指導上の課題を共有し、連携して課題解決に取り組む。③児童生徒間の交流を、行事を中心にして意図的かつ計画的に機会を設け、推進する。

中期取組目標
・学校目標を理解し、授業や行事などの活動を通し、自尊感情を高め、自己有用感を得られる生徒を育みます。 ・お互いを尊重し、高め合おうとする心、相手を思いやる心を育てます。 ・体験学習や教科指導において、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。 ・問題発見・課題解決能力を育むため、主体的・協働的に学ぶ学習や、そのための指導方法等の充実を図ります。 ・「あいさつができる」「ルールとマナーが守れる」「時間を大切にできる」生徒を育てます。 ・保護者、地域と連携を図り、生徒が進んで地域住民として、またスタッフとして参加できる行事を検討します。

重点取組分野	担当	具体的取組
確かな学力	学習指導部	教員が授業を見学し合い、研修を積もうとする雰囲気をさらに盛り上げる。新教育課程の指導や評価のポイントを理解し、生徒が安心して学習に取り組めるような環境にする。定期テストの学習だけでなく、日頃からのより良い学習方法を、生徒自ら調整していけるような助言をする。
豊かな心	人権・道徳担当	道徳の授業を学年職員全体で取り組むなどの工夫をし、より良い授業づくりを目指す。道徳の授業だけでなく、日常生活の中でも、生徒、教師共に人権感覚をみがいていく。生徒会活動等の集団活動の中では、互いに他人の気持ちになって考えることが必要であることを意識させる。
健やかな体	体育科・保健指導部	体力・運動能力調査を活用し、取組と成果を検証し改善を図る。放課後を活用した持久力向上の推進、全校一斉持久走を実施する。保健美化委員会で、健康意識の啓発と清掃環境整備による校内美化を推進する。学校保健委員会では、生徒とテーマを企画、健康保持を推進する取組を行う。
児童生徒指導	生徒指導部	年度当初に生徒指導研修会を実施し指導方針、指導内容の共通理解を図り、生徒のための指導を心がける。教育相談を年間で複数回行い、生徒理解に努める。地域の学校として、地域の一員であることを自覚して生活できる生徒を育てる。
特別支援教育	特別支援推進委員会	特別支援教育を登校支援と学習等支援の二本立てで取り組んでいく。登校支援については登校支援ルームの活用とその他、生徒に合ったアプローチに力を入れていくことで不登校生徒減少を目指す。学習等支援について、問題解決のために支援計画を具体的に実践していく。
地域連携	渉外	各自治会長と連携しながら令和2年度できなかった地域行事を見直し、できる行事を工夫しながら発展させていきたい。中学生の様子を地域の方々に見ていただく交流をもつ機会を設定し、連携を深めていく。また、ボランティアに対する意識を高めていきたい。
いじめへの対応	生徒指導部	いじめの未然防止と早期発見、早期解決に向けて、教職員の生徒を守る意識と組織的対応力をさらに高めていく。また、早渕中学校ブロック小学校との情報連携、地域の子どもとして一緒に育てていく地域との連携を密にして、生徒を見守っていく環境を作っていきたい。
人材育成・組織運営（働き方改革）	教務	学年連絡会を継続的に行い情報共有を充実させる。行事や教育課程の検討を経営委員会で行い新教育課程や学期制変更への準備を行う。校務分掌を見直し各々の役割が実質的になるようにし、各部部長を中心とした組織や育成体制を強化する。メンターチームの活性化を図る。各分掌や学年で働き方改革を推進できよう検討し実践する。